## 密教の書式 図説

氏のアス

また、卍を上にするも

★ 書主文日ラ
・ 対局の音楽
・ 対局の音楽
・ 対局の音楽
・ 対局の音楽
・ 対局の音楽
・ 対路を表上を
・ 大路を乗上を
・ 大路を表上を
・ 大路を表上を

迦陵頻伽古

惫

○○院大僧都○○法眼和尚位

我等今敬礼

智山の例(『十結』)観音堂の例 本尊によって替える。

## 第一部 法要の書式

法要一般の書式 / 晋山式 / 得度式 / 授戒会 / 結縁灌頂 / 伝法灌頂 / 結婚式/施餓鬼会/地鎮・上棟・落慶式/理趣三昧/土砂加持/ 大曼荼羅供 / 大般若会 / 表白の書き方 / 手紙の書式

#### 第二部 葬儀の書式

案内状・掲示物 / 葬具 / 位牌の書式

## 第三部 塔婆の書式

概説 / 角塔婆 / 葬送塔婆 / 施餓鬼の塔婆

### 第四部 御札・護符の書式

御札/護符

## 第五部 法具・その他の書式

法具 / 八祖像・十二天 / 日常作法の書式

種子・真言一覧



図のような小幡を掲載している。

びなくなれ



小幡は五如来幡と同形で、そのまま小さん 『法具図説』には幣のように小幡を切ることもあるとして、下 や胎蔵大日の真言などを書く。これは棚の上の餓鬼飯に刺して く作り、胎蔵五大の種



智山は小泰書を二枚重ねて折るとし、これを脇机に置くときは智山は小泰書を二枚重ねて折るとし、これを脇机に置くときは干異なり、図のようになる。

五香包



る。梵字はすでもよい。

# 施

出三界苦

以仏教門

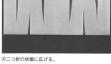
山門不幸の札を立てている。 真は智山の寺院であるが、本葬の日時を知らせる看板とあわせてなお、真言宗においても山門不幸の高札を出すことがある。写

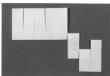
また、門牌は立てなくても差し仕えはないともいう。

また、天台宗では仮門というものを作り、棺が通る出入口に貼

て、葬家の庭に立てるとある。これは弔問者に故人の戒名を知ら によると「門牌」という掲示を出すことがある。『仏事と葬儀』 幸」の高札を山門前に立てるが、真言宗においても高野山の所伝 しめるためのものなので、戒名以外のものを書くべきではない。 によると、木札に戒名を書き、青竹を割って作った棚に結びつけ 天台宗や禅宗では葬儀があることを知らせるために「山門不 仮門

門牌





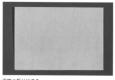


①紙は奉書または厚手の白紙を使う。

②四つ折りにする。







AL HOURALDANA BOUNDANA B

書いた大般若の護符の例を示すに留める。 のところで述べたので、その項を参照されたい。ここでは梵字で 大般若の祈禱札(宝牘)については、第一部第十三章の大般若

đ

右為利益人天殊者国土安穩伏顧橫沾四生 早超愛河 速入四海右為令法久住殊者天下泰平伏顧共円二利 同証一道 竪及五類 東方阿掲多電王

西方主

南無五帝龍王侍者眷属 園林諸堂閣 種々宝荘厳 我此土安穏 天人常充満 兩無堅牢地神与楽眷属

南方設羝嚕電王

北方蘇多末尼電王

幣の作り方

を書き、右は大穀若の種子の下に 異なる。 左は穀若菩薩の種遊・文殊・普賢)の種子を一行に書き、その下に穀若菩薩の真言 子の下に文殊菩薩の真言を書いている。 これは慈雲尊者が考案されたといわれる。中央は釈迦三尊(釈

大般若祈禱札 平成〇年 子 霊 位

長事便覧』)

○○寺第○○世○○○○

行年〇〇

う (「戒名のつけ方」参照)。 h 童

子

(『仏事と非儀』)

(三) 子どもの位牌

文字には年齢によって「童子」「童女」「孩子」「孩女」などを使うかの位牌と同じである。置字には「早世」などを使う。下位の一般の位牌も梵字にすを使う(異を使うこともある)以外は

○○○比丘尼位」とすればよいだろう。

例が多くみられるという (『天台実践叢書』)。

は、院号を与えたり、「○○院○○(大)法尼位」あるいは「○

興隆に尽くした人、あるいは生前得度・灌頂を受けた寺庭婦人に 天台宗においても基本的には同じである。近年は院号をつける

き方をすればよいが、生前比丘尼に車ずる功績を残した人や寺院・寺庭(寺庭婦人)の場合、僧階をもっていれば尼僧の位牌の書場合は「智恵歓運比丘尼位」等としている。

